

# Top Interview

トップインタビュー

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／武田 易

## 2015年の創立50周年に向けて 外国語学部をエンジン役に 全学的にグローバル人材を育成

### 本

学の建学の精神には、「日本のよき伝統を身につけながら、世界で活躍する有為な人材を育成する」という意味の言葉がうたわれています。今日、グローバル人材の育成が急務となっていますが、1965年の創立以来、本学はそれを旗印として歩んできたのです。2015年に創立50周年を迎えるにあたり、更なる展開を図りたいと考えています。

端緒になるのが14年に予定している外国語学部の改組です。現在の6学科を4学科に再編。8つの専攻を10に増やします。最大の狙いは、実践的な英語力の徹底強化。外国語学部である以上、専攻語に加え、使える英語を修得できなければなりません。本学に

は教養科目を英語で学ぶ「グローバル・ジャパン・プログラム」(GJP)がありま

す。一般に理系の学生は演習や実験などに追われ、長期留学が難しいと言われるなか、画期的なプログラムだと自負しています。

今年度は、外国語学部と理系の3学部(理学部、コンピュータ理工学部、総合生命科学部)が連携し、グローバルな社会で活躍する「理系産業人」を育成するプログラムが、文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」に採択されました。理系3学部は「グローバル・サイエンス・コース(仮称)」を新設し、4

ただし、語学だけではなく、バランスの良い学力や豊かな人間性が備わっていないければ実社会では通用しません。語学という道具を使って経済や政治、文化を語ることがするのが「1拠点総合大学」を特長とする本学を卒業した意味となるでしょう。

年次の海外への「長期研究留学」をはじめ、「夏期合同英語セミナー」や「特別英語プログラム」などを通じてグローバル産業人の育成を強化していきま

創立50周年に向け、昨年11月に新たなスローガン「Keep Innovating」を宣言、建学の原点に返るプロジェクトをスタートさせました。本学の原点は教育と産業界を繋ぐ「むすびわざ」にあり、この原点に基づいて建学以来、続けてきた型やぶりの挑戦を、これまで以上に学内外に展開していきたいと考えています。京都産業大学が大切にしている理念や教育は、社会で求められる人材育成に今後もしっかり寄与できるものであると思います。

今こそ、全学を挙げての新たな出発です。



京都産業大学  
学長  
藤岡一郎

【学長プロフィール】ふじおか・いちろう●1943年生まれ。同志社大学法学部卒業、同大学院法学研究科修士課程修了。京都産業大学法学部講師、助教授を経て、90年教授。同大学就職部長、総合能力開発室長、教務部長、副学長などを経て、2010年10月より現職。

【大学プロフィール】1965年創立。経済学部、経営学部、法学部、外国語学部、文化学部、理学部、工学部、コンピュータ理工学部、総合生命科学部の9学部。